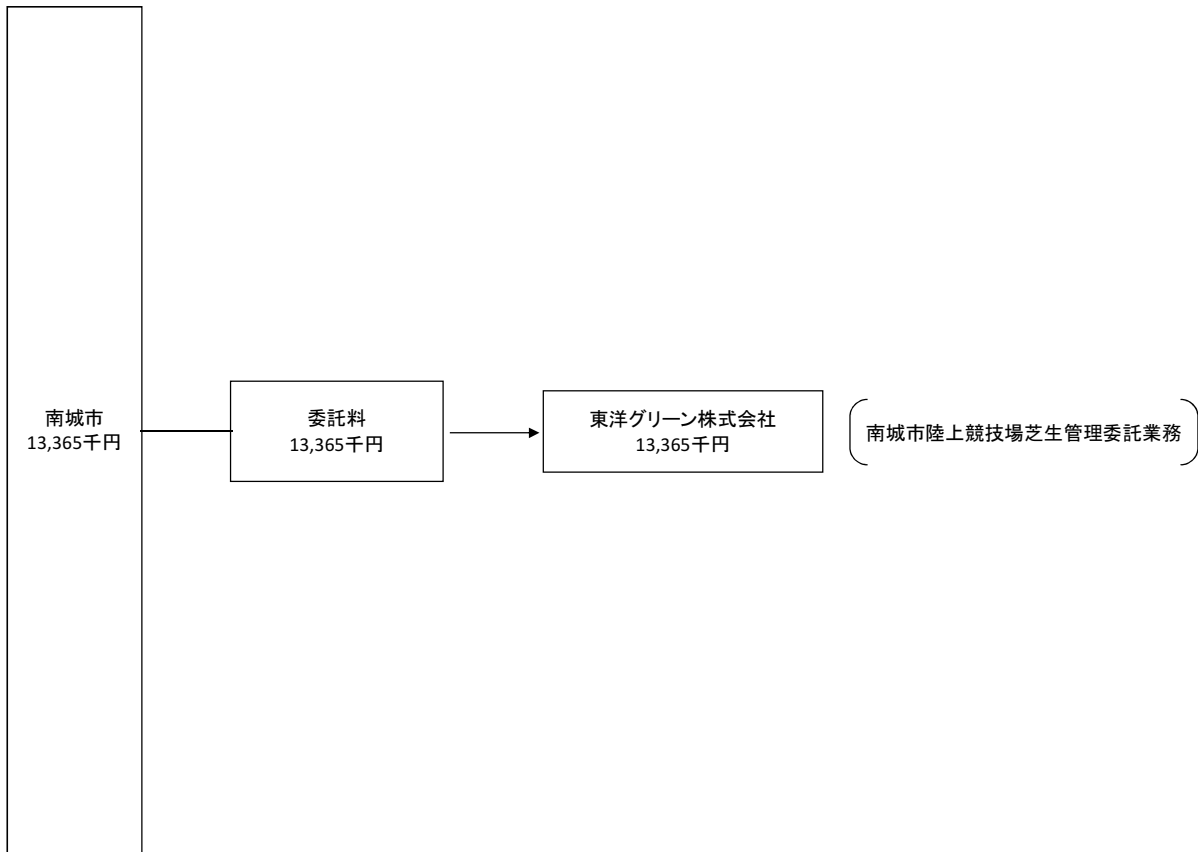


市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	スポーツツーリズム推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部課名	教育部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	市陸上競技場における天然芝の適正管理を行い、プロ・サッカーチームのキャンプ受入に適した環境整備を行うことで、プロ・サッカーチームのキャンプ誘致に繋げる。						
効果発現年度	■当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) <input type="checkbox"/>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,836	12,690	13,284	13,284	13,519
		(b)予算現額	7,836	12,690	13,284	13,284	13,519
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	7,836	12,690	13,284	13,284	13,519
	B.執行済額		7,737	12,636	13,262	13,229	13,365
	うち交付金充当額		6,189	10,180	10,609	10,583	10,692
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.7%	99.6%	99.8%	99.6%	98.9%
予算の状況の説明		当初計画に基づき予定していた事業内容は全て実施できた。不用額154千円については、予算額と契約額の差額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	良質な芝生を維持する為の適正管理		目標 (適正管理の実施)	(適正管理の実施)	(適正管理の実施)	(適正管理の実施)	
			実績 適正管理の実施	適正管理の実施	適正管理の実施	適正管理の実施	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		天然芝を良質な状態で維持するため、①シャットリング作業 ②エアレーション作業 ③パッチカル作業 ④スリッティング作業 ⑤ドリルエアレーション作業 ⑥液剤散布作業 ⑦目砂散布作業を実施し、キャンプ誘致の環境整備を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	プロ・サッカーチームのキャンプ誘致件数:3チーム		目標 ()	(3チーム)	(3チーム)	(3チーム)	()
			実績	3チーム	1チーム	2チーム	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		キャンプシーズン1月中旬から2月上旬においてプロ・サッカー2チーム(ジェフユナイテッド市原・千葉、ガンバ大阪)を受け入れることができたが、キャンプ後半(2月~3月)は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、キャンプを実施するプロ・サッカーチームがなく、目標を達成することができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の収束後、キャンプ誘致・受入れができるよう、天然芝の維持管理も含めた環境づくりを行う必要がある。 プロサッカーキャンプ地としての地位を確立するため、市サッカー協会及び観光関連団体等と連携した受入れ体制の強化を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なキャンプ誘致・受入れ環境づくりに向けて、天然芝の管理も含めた施設の維持管理費の財源確保を検討する。 受入れチームと市サッカー協会及び観光関連団体等との交流の場を設定できないか検討する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 天然芝の管理も含めた施設の維持管理費の見直しを行う。また、新たな財源として、企業版ふるさと納税の活用について協議を行う。 市サッカー協会等と連携し、幅広い世代とプロ・サッカーチームとの交流を推進する体制を構築する。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,365	13,365	10,692	2,673	0



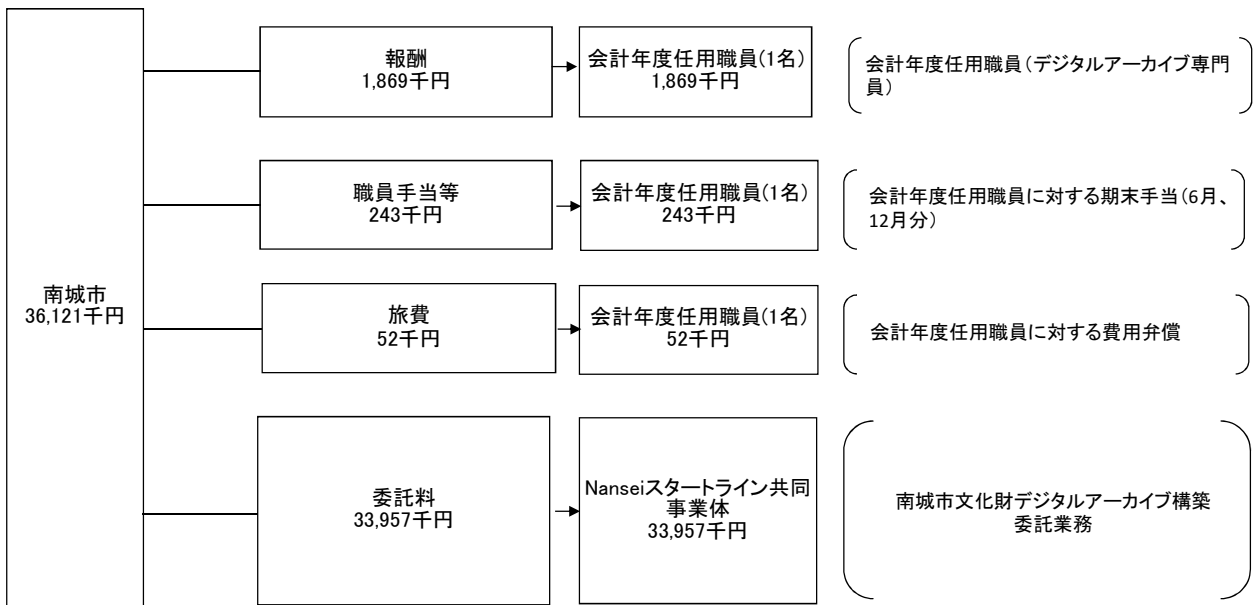
資金の流 点 検 評 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○陸上競技場の使用状況と芝生や土壌の状態を把握できる業者と契約を交わす必要があるが、業務の性質から競争入札に適さないと判断し随意契約としているため、選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は2%以内であり、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	南城市デジタルアーカイブ実施事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成30~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	歴史の継承及び観光誘客を図るため、本市の歴史・文化財・伝統芸能といった文化遺産のデジタルアーカイブ化を実施し、情報公開・発信を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		(b)予算現額			6,310		37,024
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	▲634
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	0	0	6,310	0	36,390
	B.執行済額				6,245		36,121
	うち交付金充当額				4,996		28,896
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	99.0%	#DIV/0!	99.3%
	予算の状況の説明		12月補正で634千円を減額したが、概ね事業計画通りに執行した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	歴史資料のデジタルアーカイブ化(1次:6,000点)及び公開	目標	()	()	()	(アーカイブ化及び公開)	
		実績				アーカイブ化及び公開	
	文化観光コンテンツの制作	目標	()	()	()	(制作)	
実績					制作		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・市の文化財や歴史資料(写真、映像、音声)についてデジタルアーカイブ化し、ホームページ「なんじょうデジタルアーカイブ」として公開を開始した。 ・現地の案内板などのQRコードをスマートフォンなどで読み込むと、デジタルアーカイブ化したその地域の昔の風景写真とそれにまつわる地域住民のエピソードを、3か国語(日本語・中国語・英語)のテキストと音声により解説する地域周遊コンテンツ「南城アーカイブツーリズム」を制作した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)
	歴史資料デジタルアーカイブ化(1次)の完了、公開システム仕様の決定・稼働	目標	()	()	()	(システム稼働)	()
		実績				システム稼働	
	文化財観光コンテンツの稼働	目標	()	()	()	(コンテンツ稼働)	(利用者数1,200人以上)
		実績				コンテンツ稼働	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「なんじょうデジタルアーカイブ」の公開を開始し、南城市の歴史、文化について資料を検索、閲覧、利用できる環境が整備された。 ・地域周遊コンテンツ「南城アーカイブツーリズム」は、市内の3エリア(①奥武島・當山、②新里・津波古、③久手堅・安座真)を先行して制作し、稼働を開始した。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・デジタルアーカイブを活用した地域周遊コンテンツは、本市の新たな観光資源として期待されているが、公開から日数が経っていないこともあり、十分に認知されていない状況がある。</p>	<p>・本コンテンツの認知度を高め、利用者を増やすために、市内外に周知するだけでなく、地域住民や児童生徒などに利用されるような取り組みを行う必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・市内小中学校での学習教材としての活用ならびに、市の他事業や研究機関等と連携することで発信力を高め、利用促進に繋げる。</p> <p>・多くの方々に利用してもらうため、デジタルアーカイブ内の資料内容を充実させ、SNSや広報誌などで情報発信する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
36,121	36,121	28,896	7,225	0



資金の流 点 検 査 評 価 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により選定しており、妥当である。 ○不用額は事業費の1%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算時に検査を実施し、事業目的に即し必要なものに限定されていると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	インバウンド受入環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア	
担当部課名	企画部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出	
事業内容	外国人観光客の誘客及び満足度を確保するため、インバウンドに対するニーズ調査を行い、効果的なインバウンド対策の検討や本市のプロモーションを行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,000	4,136	7,537	7,533	15,067
		(b) 予算現額	4,000	4,136	7,537	7,657	14,322
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	124	▲ 745
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		4,000	4,136	7,537	7,657	14,322
	B. 執行済額		3,996	4,112	7,516	7,657	14,322
	うち交付金充当額		3,196	3,289	6,012	6,125	11,458
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.9%	99.4%	99.7%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		概ね予定通り予算を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	外国人観光客の動向及び市内における受入実態の調査	目標	(-)	(-)	(-)	(実態調査の実施)	
		実績	-	-	-	実態調査の実施	
	市内の受入体制強化	目標	(-)	(-)	(-)	(体制強化の実施)	
		実績	-	-	-	体制強化の実施	
	旅行商品開発	目標	(-)	(-)	(-)	(商品開発)	
		実績	-	-	-	商品開発	
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・香港、オーストラリア、シンガポール、台湾の訪日経験のある方を対象に、海外市場調査(Webアンケート調査)を行った。 ・市内の観光関連業者を対象としたインバウンド受入人材育成研修会(オンライン研修会)ならびに、今後のインバウンド受入回復に向けた受入ガイドラインの参考のため、香港、オーストラリア、シンガポール、台湾の現場対応の状況等調査を行った。 ・本市の豊富な観光資源を海外インバウンド用にアレンジし、富裕層の中でもマインドリッチ層をターゲットに、コロナ禍でも安心して対応ができるツアー体制が整えられるか検証するため、モニターツアー(リアル、リモート)を開催した。 					
	成果目標(指標)及び進捗状況			基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度
斎場御嶽における外国人観光客数 30,000人以上		目標	()	(40,000人以上)	(40,000人以上)	(30,000人以上)	()
		実績	/	26,367人	21,194人	343人	/
南城市が満足できる観光地となっているか(80%以上)を含め、市に訪れた外国人を対象としたアンケートにより本事業の効果を検証する。		目標	/	(-)	(-)	(80%以上)	/
		実績	/	-	-	アンケート調査中止	/
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により、斎場御嶽を訪れた外国人観光客は343人となり、目標を達成することができなかった。 ・コロナ禍の影響により、斎場御嶽を訪れた外国人観光客を対象としたアンケート調査を実施することができなかった。 					

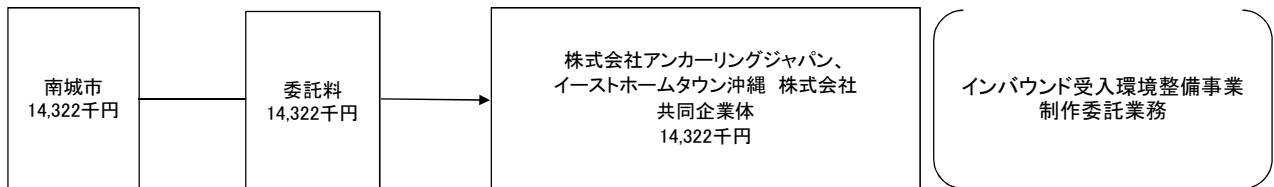
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・斎場御嶽を訪れた外国人観光客を対象としたアンケート調査を実施することができなかったが、香港、オーストラリア、シンガポール、台湾の訪日経験のある方を対象に実施した海外市場調査(Webアンケート調査)において、本市の観光スポットを体験メニューに関心を示した割合は67.6%となり、その結果とモニターツアー(リアル、リモート)のノウハウを組み合わせ、外国人観光客の誘客及び満足度を高める方法を検討する必要がある。</p>	<p>(リアルツアー) 海外市場調査の結果を踏まえ、新たな分野や多様なニーズへ対応したテーマ別商品の造成を検討する。</p> <p>(リモートツアー) コロナ禍でも本市に来訪していただけるよう、リモートツアー版のテーマ別商品の造成を検討する。</p>

今後の取り組み方針

「のんびり」や「くつろぎ」、「食」といった海外市場調査結果のニーズに対応するため、心身の健康の維持・充実をテーマにした体験・滞在型のウェルネスプログラムを中心に商品の造成に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
14,322	14,322	11,458	2,864	0



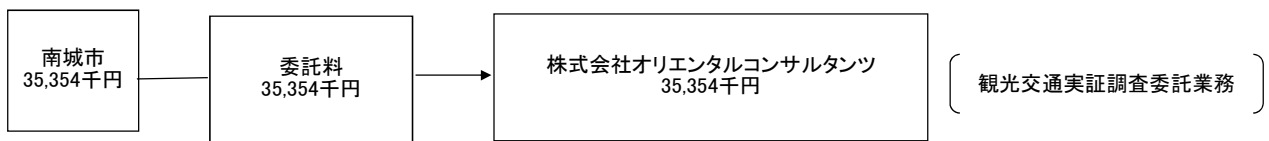
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託については随意契約であるが、公募型プロポーザル方式により受注候補者を選定しており妥当であったと考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定していた業務は滞りなく全て執行されており適正であったと考えられる。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、使途については、完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	観光交通実証調査事業					
担当部課名	企画部 観光商工課	事業実施(予定)年度 令和元～令和3年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-3-(6)-ア					
		沖縄振興基本方針該当箇所 沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出					
事業内容	観光客の利便性向上を図るため、本市の地域特性に合った観光交通のあり方や移動の利便性などを考慮したサービスの提供方法について検討を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R4年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度			
	(a) 当初予算額	9,504	40,000				
	(b) 予算現額	9,592	35,557				
	(c) 増減額(b-a)	88	▲ 4,443				
	(d) 繰越額	-	-				
	A. 計(b+d)	9,592	35,557				
	B. 執行済額	9,592	35,354				
	うち交付金充当額	7,673	28,283				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.4%				
予算の状況の説明	概ね予定通り予算を執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	-		
	バス停から観光資源までの交通手段を検討する実証調査の実施	目標 ()	(実証調査の実施)	()	()		
		実績	実施調査の実施				
【参考指標】 有識者へのヒアリング、来訪者の動態調査、首都圏及び外国人のニーズ調査、検討委員会の開催	目標	(実施)	()	()	()		
	実績	実施					
達成状況説明	市内4ヶ所(南城市役所、かんじゅう駅、奥武島、新原ビーチ)を拠点にモビリティ(折りたたみ自転車、電動アシスト自転車、小型自動車、EVカート)を設置し、実証調査ならびに利用者アンケートを実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)	
	実証調査の完了	目標	()	()	(実証調査の完了)	()	()
		実績			実証調査の完了		
	【R4成果目標】 R1年度に策定した実施計画に基づいた施策を展開し、観光客の市内交通に関する利便性確保を通して観光交流の振興・拡大につなげる。	目標					(取組実施)
進捗状況説明	実証調査期間中のモビリティ利用者は延べ1,293人であった。利用者アンケートにおいて、モビリティの利用により訪問箇所が増加したとの回答が83%、モビリティやシャトルバスがあったことで本市への来訪意欲が高まったとの回答が92%あった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>実証調査の結果から、モビリティの普及促進が市内観光の利便性確保に繋がることが確認できた。今後、継続的なモビリティ導入のために採算性も踏まえた料金設定を検討する必要がある。</p>	<p>・利用の支払意思額における平均値を参考に、各モビリティ利用料金の設定を検討する。</p> <p>・ストレスフリーでシームレスな公共交通を含めた各モビリティの利便性向上を検討する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・地域事業者や市内観光関連事業者と連携し、継続的な運営に繋がるよう採算性確保に取り組む。</p> <p>・今回の実証実験にて使用した予約受付アプリ等を活用し、モビリティ利用料金のキャッシュレス化を目指す。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
35,354	35,354	28,283	7,071	0



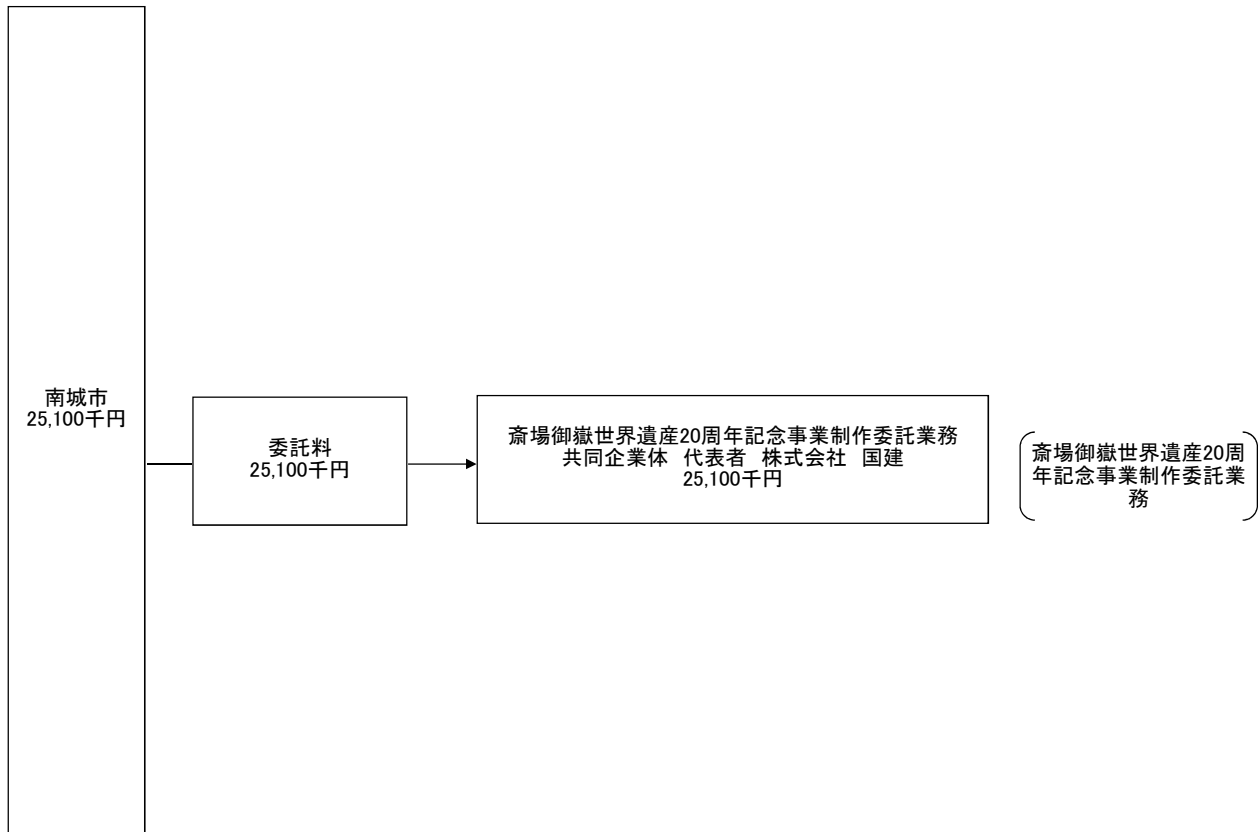
資金用途の流れ、点検、評価項目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託については随意契約であるが、公募型プロポーザル方式により受注候補者を選定しており妥当であったと考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、予算執行率99.9%であり、適正な規模と判断した。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、用途については、完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用、用途については、完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	東御廻り等・体験交流受入整備強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	企画部 観光工商課	事業実施(予定)年度	平成27~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	観光地として魅力的な景観形成を図るため、世界遺産斎場御嶽をはじめ、東御廻りに関する周辺エリアの整備等を行う。令和2年度は、記念シンポジウムの実施、周辺エリアの担い手育成、国内における聖地ネットワーク構築、商品化のためのモデルツアーを実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	16,898	82,842		7,863	25,376
		(b)予算現額	16,898	82,842		7,986	25,157
		(c)増減額(b-a)	0	0		123	▲219
		(d)繰越額	-	-		-	-
		A.計(b+d)	16,898	82,842		7,986	25,157
	B.執行済額		16,838	65,266		7,986	25,100
	うち交付金充当額		13,470	52,212		6,388	20,080
	次年度繰越額		0	0		0	0
	執行率(%) (B/A)		99.6%	78.8%		100.0%	99.8%
予算の状況の説明		概ね事業計画どおりに予算を執行した。入札残となった219千円は補正減を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	斎場御嶽の観光利用について地域関係者との連携強化、認識共有	目標	()	()	(実施)	()	
		実績			実施		
	地域関係者と連携した観光プログラムの開発、モニターツアーの実施	目標	()	()	(実施)	()	
		実績			実施		
	聖地観光の普及啓発(シンポジウムの開催、聖地所在自治体のネットワーク構築)	目標	()	()	(実施)	()	
実績				実施			
【参考指標】関係者へのヒアリング、観光客ニーズ調査、検討委員会の開催、関係者会議の開催	目標	()	(実施)	()	()		
	実績		実施				
達成状況説明	・斎場御嶽のチケット販売所から斎場御嶽までの通りの景観形成、保全を目的に「通り会」を発足し、景観形成への意識の造成として県内の他地域の視察を行った。 ・聖地というキーワードで市内に点在する聖地を巡る観光プログラムを開発しモニターツアーを実施した。 ・世界遺産登録20周年を記念してシンポジウムを開催し、他県の事例を交えながら斎場御嶽が持つ本来の価値を担保し、持続的な観光地経営に必要なことなどの議論を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)
	斎場御嶽を活用した滞在型観光プログラムの開発完了、商品化	目標	()	()	()	(商品化)	()
		実績				商品化	
	【R3成果目標】滞在型観光プログラムの利用者数:延べ100人以上		目標				(100人以上)
進捗状況説明	滞在型観光プログラムを開発し、モデルツアーを実施し、商品化を行った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	シンポジウムの実施、通り会の発足、聖地ネットワークの構築など、事業を推進する上での下地は整ったと考えている。今後は令和3年度に整備を予定している齋場御嶽前の通り(市道知念1号線)の暑さ対策工事を含め、市役所・通り会が継続的に景観を維持していく必要がある。	景観形成を行ううえでランドスケープ(景観)の専門家に助言を求めながら周辺エリアの景観向上に努める。
今後の取り組み方針		
令和3年度に市道知念1号線の暑さ対策工事を行い、来訪者の受入体制の維持、市内滞在時間の延長を図るため、エリア周辺の景観保存に取り組む。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
25,100	25,100	20,080	5,020	0



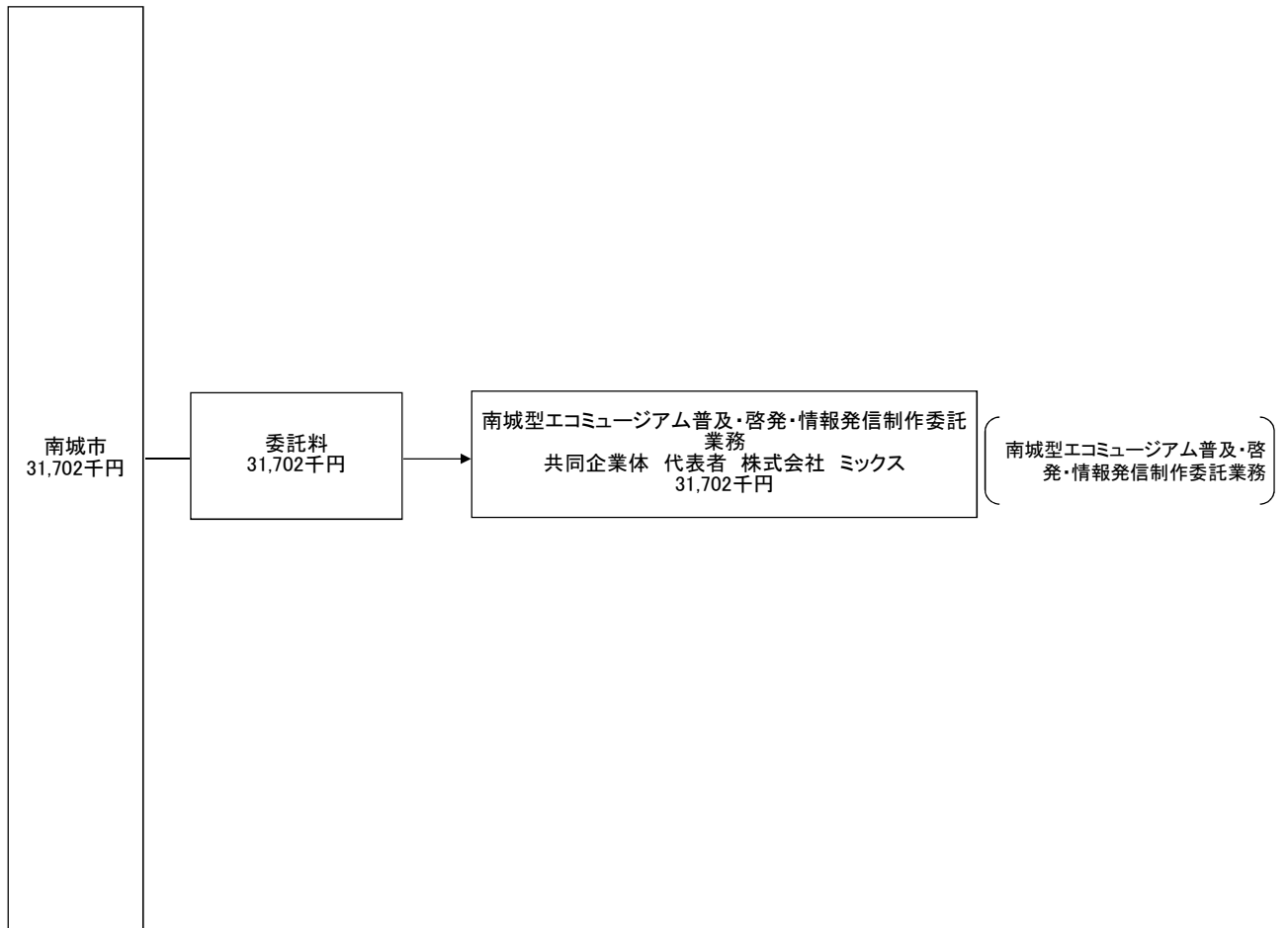
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は無く、適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	南城型エコミュージアム普及・啓発・情報発信事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア			
担当部課名	企画部 観光工商課	事業実施(予定)年度	令和2~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出		
事業内容	まち全体が博物館という南城型エコミュージアムの概念や本市の魅力を市内外に広く知ってもらうため、本市の有する魅力ある自然、歴史、文化、産業などを広く発信する。 令和2年度は、市民参加型のワークショップを行い、南城型エコミュージアムの魅力が伝わるタブロイド等を作成し、それを首都圏、県内のイベント等で配布し認知度向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
						31,702	
	B. 執行済額						31,702
	うち交付金充当額						25,361
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%
	予算の状況の説明		事業計画どおり予算を執行した。				
	活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況			
				H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		市民参加型ワークショップを5回開催する		目標 ()	()	()	(5回開催)
		実績			5回実施		
県内外でイベントを開催する		目標 ()	()	()	(開催)		
		実績			開催		
達成状況説明		・南城市の個性や魅力を知るワークショップを5回開催し、参加者がプロの編集者から取材や執筆の方法を学びながらタブロイド紙を作成した。 ・D&DEPARTMENT沖縄店(宜野湾市)、d47 design travel store(東京都:渋谷ヒカリエ8F)でイベントを実施し、タブロイド紙の配布を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	市民参加型ワークショップの参加人数 延べ135人以上		目標 ()	()	()	(135人以上)	()
			実績				161人
	県内外でイベント1日当たりの平均来場者数 300人以上		目標 ()	()	()	(300人以上)	()
			実績				93人
	進捗状況説明		・市民参加型のワークショップを5回実施し、延べ161人の参加があり、目標を達成した。 ・県内外でイベントを実施したが、コロナ禍の影響もあり1日当たりの平均来場者数は約93人であったため、目標を達成することはできなかった。イベントでは、タブロイド紙に掲載された商品をを展示販売することで、紙面との相乗効果を促し、本市の魅力が伝わるよう工夫を行った。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>タブロイド紙が出来たことで、対外的に南城型エコミュージアムの説明がしやすくなったが、本市のどのようなところに興味や関心を持ったかヒアリングなどを行う必要がある。</p>	<p>タブロイド紙に掲載されている史跡や店舗などを巡るモデルツアーを企画、検討する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・南城型エコミュージアムとして本市の魅力を感じることができるモデルツアーを企画、実施する。 ・巡回コース案などを作成し、関連するホームページなどで広報することで、認知向上を図る。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
31,702	31,702	25,361	6,341	0



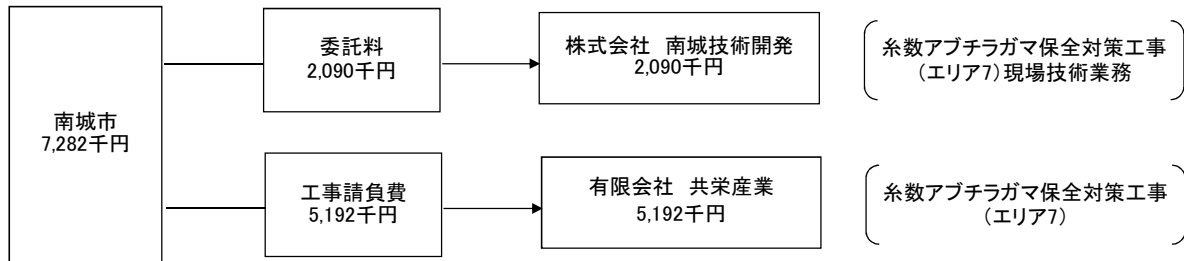
資金使途の流れ、評価目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○不用額は無く、適正な規模であった。</p> <p>○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	平和学習受入体制強化事業					
担当部課名	企画部 観光工商課	事業実施(予定)年度 平成25～令和2年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
		第3章-4-(2)-ウ					
		アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開					
事業内容	系数アブチラガマは、経年による崩落や周辺環境の変化による壕への影響が懸念されるため、来訪者の安全確保及び戦跡の保全のための工事を行い、沖縄戦の歴史の継承及び観光誘客を図る。 令和2年度は、ガマ内の保全対策工事(第2期)を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,283		10,023	30,005	9,526
		(b)予算現額	20,283		10,023	30,005	7,282
		(c)増減額(b-a)	0		0	0	▲2,244
		(d)繰越額	-		-	-	-
		A.計(b+d)	20,283		10,023	30,005	7,282
		B.執行済額	16,287		9,396	17,215	7,282
		うち交付金充当額	13,029		7,516	13,772	5,825
		次年度繰越額	0		0	0	0
		執行率(%) (B/A)	80.3%		93.7%	57.4%	100.0%
予算の状況の説明	概ね予定通り予算を執行することができた。入札残となった2,244千円は補正減を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	第2期保全対策工事の実施	目標	()	()	(第2期保全対策工事の実施)	()	
		実績			第2期保全対策工事の実施		
	【参考指標】 第1期保全対策工事の実施	目標	(保全対策設計の実施)	(第1期保全対策工事の実施)	()	()	
実績		保全対策設計の実施	第1期保全対策工事の実施				
達成状況説明	第2期保全対策工事として、出口部分の落石防止防護柵を設置する工事を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)
	第2期保全対策工事の完了	目標	()	()	()	(第2期保全対策工事の完了)	()
		実績				第2期保全対策工事の完了	
	【R3成果目標】 年間来場者数:108,800人	目標					(108,800人以上)
進捗状況説明	工事が完了し、安心安全にガマを見学することが出来るようになった。R3年度の成果目標として、年間来場者数108,800人達成を掲げている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	工事が完了した事により、安全・安心にガマを見学できるようになったため、安全な環境である事の周知及び来場者数の増加に向けた活動を行う必要がある。	系数アブチラガマのホームページ等を活用し、安全・安心にガマを見学できるようになったことのPR広報内容の検討を行う。
今後の取り組み方針		
ホームページ・SNSを活用して安心安全な系数アブチラガマをPR広報し、沖縄戦の歴史の継承及び戦跡を活用した観光誘客の増加に取り組む。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,282	7,282	5,825	1,457	0



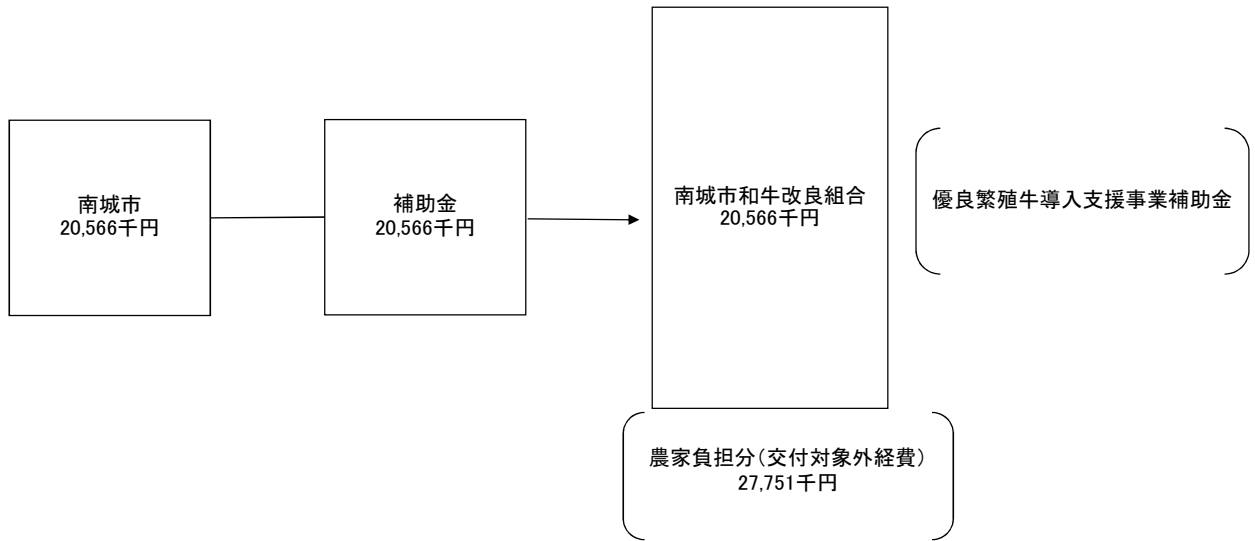
資金使途の流れ 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託については随意契約であるが、公募型プロポーザル方式により受注候補者を選定しており妥当であったと考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定していた業務は滞りなく全て執行されており適正であったと考えられる。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、使途については、完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	優良繁殖牛導入支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部課名	農林水産部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	和牛繁殖農家の経営の安定化に向け、畜産農家が生産する子牛の品質及び価格の向上を図るため、畜産農家に対して優良繁殖雌牛を貸し付けるものに対して支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,000	20,000	25,000	25,000	25,000
		(b) 予算現額	20,000	20,000	25,000	25,000	21,276
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 3,724
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		20,000	20,000	25,000	25,000	21,276
	B. 執行済額		19,699	19,129	22,727	22,074	20,566
	うち交付金充当額		15,759	15,303	18,181	17,659	16,452
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.5%	95.6%	90.9%	88.3%	96.7%
予算の状況の説明		当初予定していた事業内容は全て実施できた。市場における牛の価格変動により購入残額3,724千円を補正減した。不用額720千円はその後の購入残額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	優良母牛導入支援	目標	(50頭)	(50頭)	(50頭)	(50頭)	
		実績	50頭	50頭	50頭	50頭	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	導入頭数目標の50頭導入を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値 (H28年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (年度)
	導入した優良母牛から産まれる子牛とそうでない子牛との価格差の割合:117.1%以上	目標	(104%)	(104%)	(113%)	(117.1%)	()
		実績		114.7%	112.4%	110.5%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	導入した優良母牛から産まれる子牛とそうでない子牛との価格差の割合は110.5%となり、目標を達成することができなかった。 セリ平均価格 導入牛から産まれた子牛 (A) 715,955円(実績:508頭) 導入牛以外から産まれた子牛 (B) 647,648円(実績:3,405頭) (A)÷(B)=110.5% ※当年度に導入した優良母牛から産まれた子牛は販売までに時間を要するため、これまでに導入した優良母牛から産まれた子牛のセリ価格で実績を算出。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・導入した優良母牛から産まれる子牛とそうでない子牛との価格差の割合が目標達成できなかった要因として、コロナ渦の影響によりセリ価格の低下がある。</p>	<p>・コロナ禍の影響など外的要因による市場価格の変動がある中においても、セリ価格の低下を抑えるため、品質や信頼を高める方法を検討する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・品質や信頼を高めるため、購入した母牛の基本登録(和牛登録)を行う。また、基本登録時の審査成績の向上を図るため、関係機関と協力してより改善できる方策を検討する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
48,317	20,566	16,452	4,114	27,751



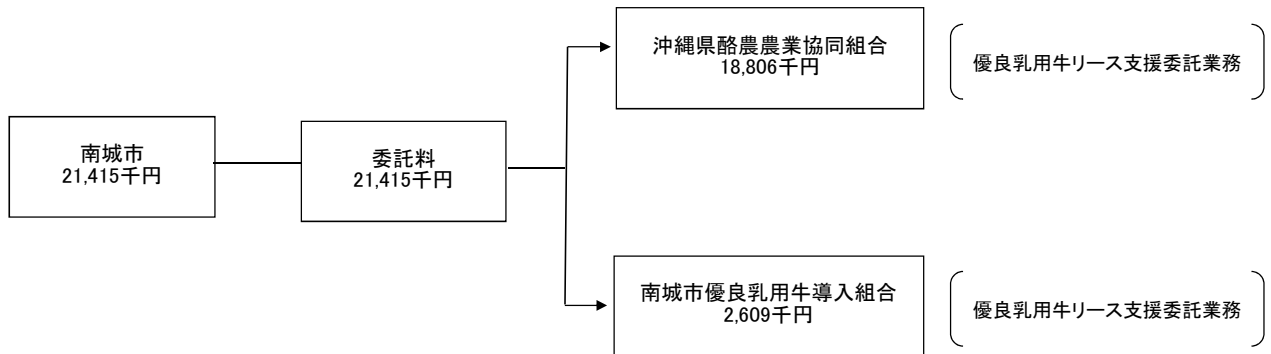
資金の流 れ、 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金交付団体は、市内農家の経営実態を十分に把握し、生産技術の向上や経営指導等にも携わっているため妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○市場での牛の価格変動により不用額が生じたが、当初予定していた事業内容はすべて実施し、適切な規模だった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は総事業費の5割以上を負担しており、事業内容から判断して妥当であるとする。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業費の確定時において検査、確認をしており、使途は目的に則し、必要な物に限定されている。

市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	優良乳用牛リース支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部課名	農林水産部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成27~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	酪農家経営安定化に向け、乳用牛の生産乳量の増加と乳質の向上を図るため、酪農家に対して優良乳用牛を貸し付けるものに対し支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		20,000	20,000	25,000	25,000	25,000
			20,000	20,000	25,000	25,000	22,500
			0	0	0	0	▲ 2,500
			-	-	-	-	-
			20,000	20,000	25,000	25,000	22,500
	B. 執行済額		19,954	19,973	24,423	20,887	21,415
	うち交付金充当額		15,963	15,978	19,538	16,709	17,132
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%	99.9%	97.7%	83.5%	95.2%
予算の状況の説明		当初予定していた事業内容はすべて実施できた。市場における牛の価格変動により購入残額2,500千円を補正減した。不用額1,085千円はその後の購入残額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	優良乳用牛導入支援	目標	(50頭)	(50頭)	(50頭)	(50頭)	
		実績	52頭	50頭	50頭	50頭	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	導入頭数目標の50頭導入を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(H28年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	生産乳量(1頭):7,824kg以上/年	目標	(7,824kg以上)	(7,917kg以上)	(7,860kg以上)	(7,824kg以上)	()
		実績		7,380kg	7,988kg	8,543.5kg	
	乳質(脂肪率):3.87%以上	目標	(3.89%以上)	(3.91%以上)	(3.89%以上)	(3.87%以上)	()
		実績		3.91%	3.87%	3.98%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 生産乳量目標7,860kg以上に対して実績が8,543.5kgとなり、目標値を達成できた。 乳質(脂肪率)の向上3.89%以上に対して実績が3.98%となり、目標値を達成できた。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(生産乳量の増加) 目標に定めた1頭あたり平均乳量を達成することができた。優良な乳用牛の導入(更新)を支援できたことが目標達成の要因と考えられる。	(生産乳量の増加) 生産乳量の増加に繋がるよう、今後も継続して優良乳用牛の導入(更新)支援を行っていく。
	(乳質(脂肪率)の向上) 優良な乳用牛(能力の高い牛)の導入(更新)を支援できたことが目標達成の要因と考えられる。	(乳質(脂肪率)の向上) 脂質(脂肪率)を維持していくため、今後も継続して関係機関と連携して飼養管理指導を行っていく。
今後の取り組み方針		
<p>今後も安定した乳量を確保できるよう関係機関と連携をとり、農家への適切な飼養管理指導、農家の意欲向上、乳用牛経営基盤の強化に取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
21,415	21,415	17,132	4,283	0



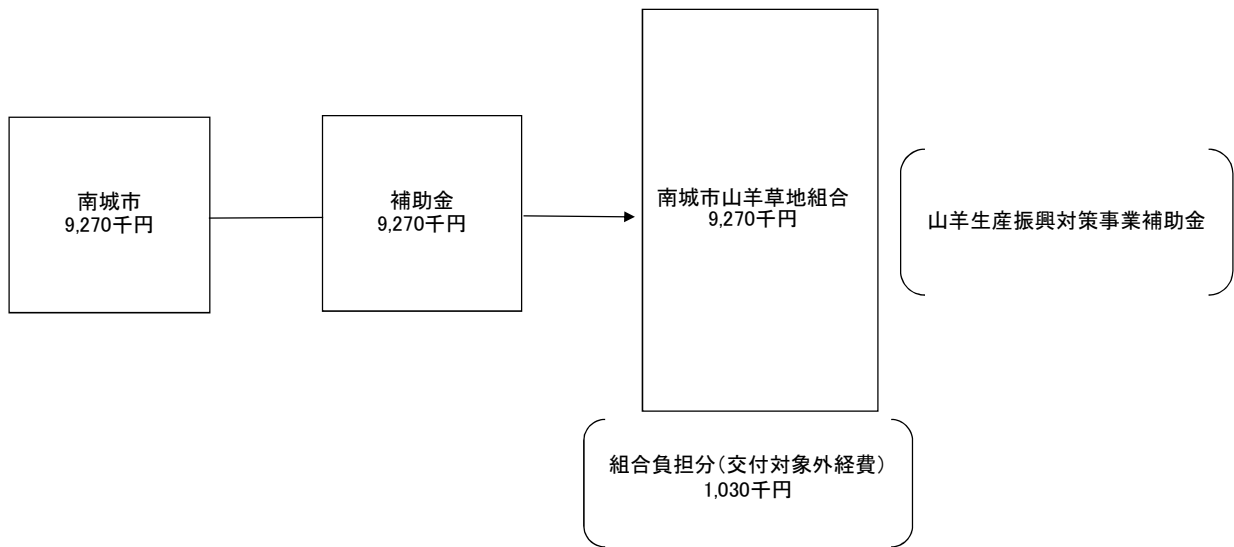
資金用途の流れ、点検、評価目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、市内農家の経営実態を十分に把握し、生産技術の向上や経営指導等にも携わっているため妥当と考える。 ○不用額が生じたが、市場の牛の価格変動によるものであり、当初予定していた事業内容は全て実施し、適正な規模であった。 ○事業費の確定時において検査、確認をしており、用途は目的に即し、必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市							
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-③	山羊生産振興対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア			
担当部課名	農林水産部 産業振興課	事業実施(予定)年度	令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)			
事業内容	安定的な山羊供給体制の確立及び山羊生産の拡大を図るため、農業機械の整備を行うものに対して支援を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額					9,817	
		(b) 予算現額						9,270
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0		▲ 547
		(d) 繰越額	-	-	-	-		-
		A. 計(b+d)	0	0	0	0		9,270
	B. 執行済額							9,270
	うち交付金充当額							7,416
	次年度繰越額		0	0	0	0		0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		100.0%
	予算の状況の説明		当初予定していた事業内容は実施できた。補助先が行った入札により不用額547千円が生じたため補正減を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	粗資料管理機械一式導入	目標	()	()	()	(機械導入)		
		実績				機械導入		
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	トラクター、ロールペーラーなど粗飼料管理機械一式を導入した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	山羊飼養頭数:478頭以上	目標	()	()	()	(478頭以上)	()	
		実績				423頭		
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	山羊頭数目標478頭に対して実績が423頭となり、目標頭数を達成できなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	目標頭数を達成できなかった要因として、粗飼料管理機械一式を導入し、草地面積の拡大することができたが、種付けが上手くいかなかったことや死亡等があったためと考えられる。	山羊の繁殖強化を図るため、飼養管理方法や種付け方法を学ぶことのできる場を作ることや、農家への適切な管理指導を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
農家や関係機関と連携し、飼養管理方法や種付け方法等の講習会を開催する。また、農家への適切な管理指導を行い、山羊繁殖の改良、強化に取り組む。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
10,300	9,270	7,416	1,854	1,030



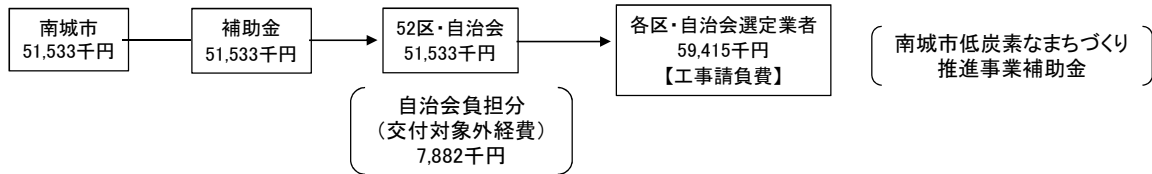
資金の流 点 検 評 価 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金交付団体は、市内農家の経営実態を十分に把握し、生産技術の向上や経営指導にも携わっているため妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初予定していた事業内容は全て実施し、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である組合は総事業費の1割を負担しており、事業内容から判断して妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業費の確定時において検査、確認しており、使途は目的即し、必要な物に限定されている。

市町村名		南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-① 低炭素なまちづくり推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(3)-ウ			
	市民部 生活環境課		事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	低炭素都市づくりの推進			
担当部課名				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(1)			
事業内容	防犯灯の照明器具を省エネ型のLED照明に切り替え、温室効果ガスの排出削減を図る。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,827	42,519	68,024	18,900	51,570	
		(b) 予算現額	16,827	42,519	53,461	18,900	51,570	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 14,563	0	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	16,827	42,519	53,461	18,900	51,570	
	B. 執行済額		16,686	30,403	51,132	18,884	51,533	
	うち交付金充当額		13,348	24,322	40,905	15,107	41,226	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.2%	71.5%	95.6%	99.9%	99.9%	
予算の状況の説明		当初予定通りの予算執行をすることができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	防犯灯をLED照明器具へ切り替え		目標 (LED照明器具への切り替え)	(LED照明器具への切り替え)	(約350本)	(955灯)		
			実績	LED照明器具への切り替え	LED照明器具への切り替え	371本	970灯	
			目標	()	()	()	()	
		実績						
達成状況説明		補助金交付団体が保有する防犯灯について、予算の範囲内での補助としており、当初955灯の切替を予定していたが、補助金交付団体と施工業者の調整によるLED切替単価削減等により、970灯の切替を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	二酸化炭素排出量の削減効果		目標	()	(120,000kg減)	(36,000kg-CO2/年)	(98,963kg-CO2/年)	()
			実績		151,674kg減	57,473kg-CO2/年	177,294kg-CO2/年	
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素排出量の削減目標値98,963kgに対し、実績値は177,294kgとなり、目標を上回った。 ・地球温暖化対策の意識啓発を図るため、例年通り本事業成果を市広報誌やホームページに掲載した。また、南城市地球温暖化対策実行計画における対象施設についても、排出された温室効果ガス排出量をホームページで公表したほか、環境省の地球温暖化対策に資する取り組み(クールチョイス)を紹介した。 ・地球温暖化対策実行計画に基づき、本事業以外の設備投資に係る補助事業について、補助対象を省エネ設備とするよう、補助金交付要綱の改正を行った。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・コロナウイルス感染拡大等に伴い、事業が遅延する団体が見受けられた。</p>	<p>・コロナウイルス感染症の収束も見通せないため、事業期間にゆとりを持たせて事業実施できるように、事業実施団体へ事前に周知する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・所管課においても、各団体の進捗状況を文書や電話連絡などにより定期的に確認し、遅延の恐れがある団体については、計画的な事業実施に繋がるよう提出書類の作成などのサポートを行う。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
59,415	51,533	41,226	10,307	7,882



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金については、各自治会へ周知を行い、希望する自治会に対し補助を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、予算執行率99.9%であり、適正な規模と判断した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については、各自治会において総事業費の1割及び電力申請料等の補助対象外経費を負担しており、他市町村における同様な事業における負担割合と比較しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、完了検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		南城市					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①		学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
	教育部 教育指導課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進	
担当部課名						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うため、学習支援員を配置し、学力の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	17,334	18,480	17,640	17,640	17,928
	(b) 予算現額	17,334	15,848	17,640	17,640	17,928	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 2,632	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	17,334	15,848	17,640	17,640	17,928	
	B. 執行済額	14,139	15,677	12,506	14,650	14,751	
	うち交付金充当額	11,311	12,541	10,005	11,720	11,801	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	81.6%	98.9%	70.9%	83.0%	82.3%	
予算の状況の説明		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休校となった影響もあり、不用額3,177千円が生じたが、概ね予定通り事業を実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	市立8小学校へ学習支援員8名配置		目標 (8小学校 学習支援員8名)	(8小学校 学習支援員8名)	(8小学校 学習支援員8名)	(8小学校 学習支援員8名)	
			実績 8小学校 学習支援員8名	8小学校 学習支援員延べ9名	8小学校 学習支援員延べ9名	8小学校 学習支援員延べ8名	
	市立4中学校へ学習支援員4名配置		目標 (4中学校 学習支援員4名)	(4中学校 学習支援員4名)	(4中学校 学習支援員4名)	(4中学校 学習支援員4名)	
		実績 4中学校 学習支援員4名	3中学校 学習支援員3名	4中学校 学習支援員延べ5名	4中学校 学習支援員延べ4名		
達成状況説明	・小学校は、新型コロナウイルス感染症における感染リスク等の理由により、2校において配置途中で退職したため、予定どおりに支援員を配置することができなかった。 ・中学校は、予定どおり支援員を配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査における県平均正答率の差 小学校:県平均以上		目標 ()	(県平均以上)	(県平均以上)	(県平均以上)	()
			実績	県平均 61.1 小学校 58.4 △2.7	県平均 59.4 小学校 58.5 △0.9	県平均 57.2 小学校 55.5 △1.7	
	沖縄県学力到達度調査における県平均正答率の差 中学校:県平均以上		目標 ()	(県平均+0.4以上)	(県平均以上)	(県平均以上)	()
			実績	県平均 50.2 中学校 51.9 1.7	県平均 54.3 中学校 54.0 △0.3	県平均 51.0 中学校 51.5 0.5	
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査を県平均と比較すると、小学校では△1.7ポイントと県平均には届かず未達成となったが、中学校では0.5ポイント県平均を上回り目標を達成することができた。 中学校においては、5校中3校が県平均を上回ったものの4校は県平均に届かなかった。 小学校においては、9校中3校のみが、県平均を上回ったものの6校は県平均に届かなかった。						

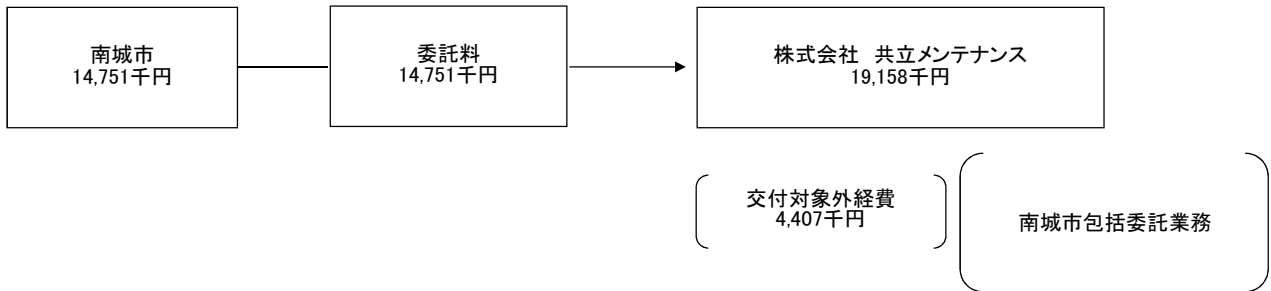
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校においては、中学校では0.5ポイント県平均を上回り目標を達成となった。1年生の英語が△2.2ポイント県平均を下回る結果となっている。 また、小学校においては、9校中3校のみが、県平均を上回ったものの6校は県平均に届かず、目標は未達成となった。国語が5年生△1.8ポイント、6年生△3.3ポイント県平均を下回っており、平均値を下げる結果となっている。 ・支援員人材不足の中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、支援員が年度途中で辞めてしまうと、新たな支援員をすぐに配置(確保)できない状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県学力到達度調査の結果を受けて、小・中学校における基礎学力の定着に向けた取り組み方を見直す必要がある。 また、通常の授業についていけない児童・生徒の個々の能力に応じた適切な学習支援の方法のあり方についても見直す必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業措置等による教育格差の影響がないよう努める必要がある。

今後の取り組み方針

・基礎学力の定着に向け、担当教諭や学年主任等と連携を密に図り、学力の低下が見られる児童・生徒の個々の能力に応じた適切な学習支援に取り組んでいく。今後も効果的な支援を行っていくために、学力向上に向けて効果のあった方法・事例等について研究会ならびに情報交換を行い、各学校の取り組みについて工夫改善に取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
19,158	14,751	11,801	2,950	4,407



資金の流点れ、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流点れ、評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者は公募型プロポーサル方式により企業組織、実績等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○欠員が生じた学校に支援員を配置するまでに時間を要したことや、コロナ禍の影響もあり、不用額は出ているが、概ね事業内容を実施でき、予算規模は適正な規模であった。 ○費目・用途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ	
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進	
事業内容	特別な支援を要する園児・児童・生徒に対応した支援を行うため、特別支援教育支援員を配置し、学校生活や学習上の困難の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	60,644	73,663	74,955	74,955	76,585
	(b) 予算現額	60,644	73,663	74,955	74,955	76,585	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	60,644	73,663	74,955	74,955	76,585	
	B. 執行済額	52,506	58,333	62,548	54,109	53,149	
	うち交付金充当額	42,004	46,666	50,038	43,287	42,519	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	86.6%	79.2%	83.4%	72.2%	69.4%	
予算の状況の説明	年度当初より、支援員配置計画に基づき支援員の目標数確保を目指していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による影響もあり目標数を確保する事が出来ない状況があった。また、不用額23,436千円が生じたが事業内容は概ね実施できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	5幼稚園:特別支援教育支援員12名配置	目標	(10名)	(12名)	(12名)	(12名)	
		実績	延べ13名	延べ14名	延べ12名	延べ24名	
	8小学校:特別支援教育支援員36名配置	目標	(37名)	(38名)	(36名)	(34名)	
		実績	延べ41名	延べ42名	延べ32名	延べ31名	
	4中学校:特別支援教育支援員6名配置	目標	(6名)	(4名)	(6名)	(8名)	
実績		6名	4名	延べ6名	延べ8名		
達成状況説明	特別支援教育支援員配置計画に基づき、概ね適正な配置により支援を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	特別支援教育支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		82.2%	88.5%	86.3%	
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	新型コロナウイルス感染症拡大の状況下ではあったが、学級担任等との密な連携によりきめ細やかで適切な支援を行うことで、学習面や学校生活面でのサポート体制の強化に繋がり、より良い変化が見られ、保護者に対して満足度を調査した結果86.3%の保護者から満足しているとの結果を得ることができた。						

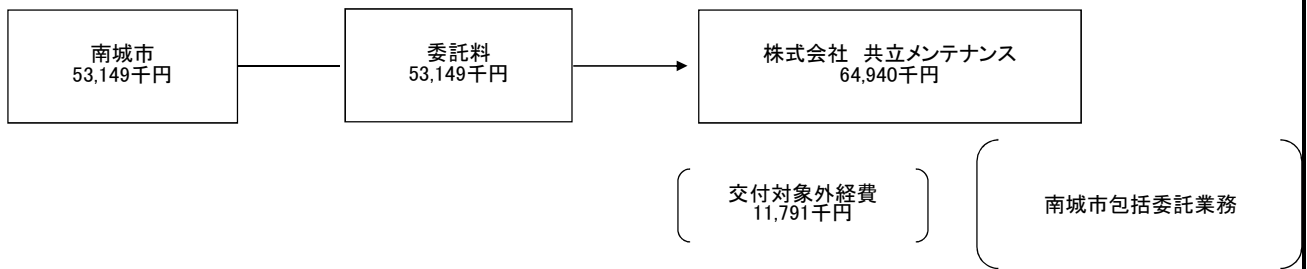
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>幼・小・中学校に在籍する特別な支援を要する園児・児童・生徒に対し支援員を配置し、担任教諭等との連携により適切な対応を行ったことで、障害から生ずる個々の困り感を克服し、落ち着いて学習活動に取り組めるようになるなど自立を促したが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための学校臨時休業等により幼稚園の環境や学習環境にうまく適応できない園児、児童、生徒の対応にが求められる中、保護者の満足度も目標を達成できている。</p> <p>支援を要する園児・児童・生徒が年々増加傾向にあり、年度当初の配置計画どおりに支援員が配置(確保)できない状況がある。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応に努めながら、特別支援教育の質が高まるよう、年々増加する対象園児・児童・生徒に対応する方法等を含めた研修内容の再検討を行う。</p> <p>また、各学校の特別支援コーディネーターとの連携をより強化し、個々の実態に応じた適切な対応を行っていく。</p>

今後の取り組み方針

- ・特別支援教育支援員連絡会における研修内容の更なる充実化を図るため、特別支援コーディネーターと支援員の役割を明確にし連携強化に取り組む。
- ・支援対象児等のケアや担任教諭等へ専門的知見から作業療法士等による指導、助言を行う。
- ・支援を要する児童・生徒向けに、認知能力強化のためのトレーニング等を部分的に実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
64,940	53,149	42,519	10,630	11,791



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募プロポーサル方式により、企業組織、実績等を勘案した上で選定しており妥当であったと考えている。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○欠員が生じた学校に支援員を配置するまでに時間を要したことや、コロナ禍の影響もあり、不用額は出ているが、概ね事業内容を実施することができ、予算規模は適正な規模であった。
—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認しており、適正であった。
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市							
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-③	小・中学校電子黒板等整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進			
事業内容	ICT機器を活用した効果的な授業展開を実施するため、市内小中学校の普通教室や特別教室に電子黒板等を整備する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	58,957	53,401	46,620		34,661	
		(b) 予算現額	58,957	63,793	46,620		28,523	
		(c) 増減額(b-a)	0	10,392	0	0	▲ 6,138	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	58,957	63,793	46,620	0	28,523	
	B. 執行済額		49,350	63,793	41,752		28,521	
	うち交付金充当額		39,479	51,034	33,401		22,817	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		83.7%	100.0%	89.6%	#DIV/0!	100.0%	
予算の状況の説明		当初予算額で34,661千円を計上し、学級増により追加した分も含めて、普通教室や特別教室に43台を計画通り整備した。補正減となった6,138千円は入札残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	市内小中学校(13校) 久高小中学校を含む46台整備 (普通教室20台、特別教室26台)		目標	(普通31台 特別9台)	(普通54台 特別9台)	()	(普通20台 特別26台)	
			実績	普通49台 特別18台	普通58台 特別13台		普通17台 特別26台	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室は、当初計画では20台整備予定であったが、令和2年度の学級数確定に基づいて17台整備した。 ・特別教室は、当初計画どおり26台整備した。 							
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かり易かったと答えた割合が85%以上		目標	()	(80%以上)	()	(85%以上)	()
			実績		92%		92.9%	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
	進捗状況説明	児童生徒にアンケートを実施し、電子黒板を使用した授業は分かりやすかったかとの回答が9割を超えており、成果目標を達成することができた。						

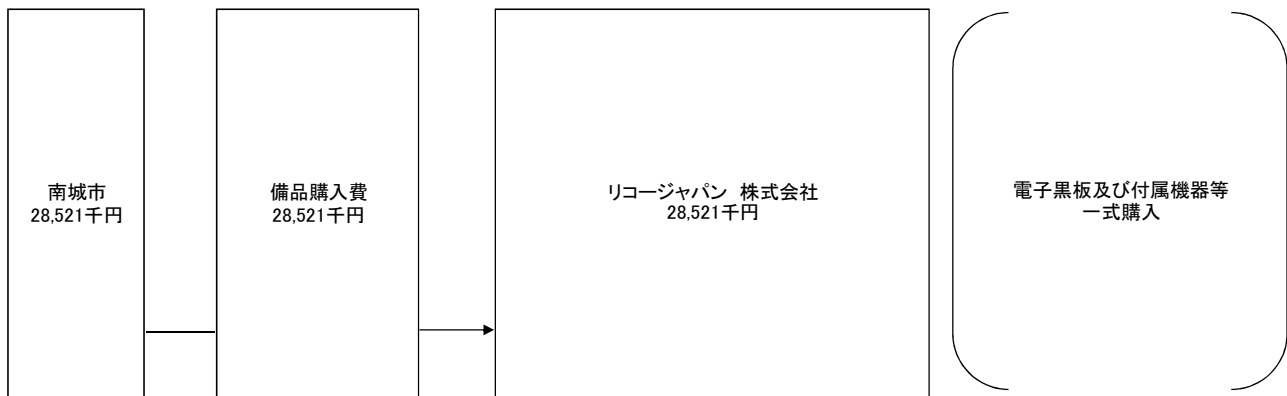
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板の整備により、分かりやすい授業が行われる環境が整ったが、電子黒板を有効活用した教科単位での授業展開に繋げていく必要がある。 ICT機器の活用については、電子黒板の操作方法、機器トラブルへの対処方法等、授業づくりに関するノウハウを蓄積・活用していく体制を整える必要がある。 特別教室(英語ルーム、音楽室、美術室)に整備を行ったが、授業に対する興味・関心を持たせる授業づくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究とともに、電子黒板を十分に活用した授業内容となるよう、研修等の開催を行う。 ICT支援員を派遣し、教員それぞれに合わせたICT活用の支援体制を強化し、授業づくりに関するノウハウを蓄積する体制を整える。 特別教室での活用方法としては、実際に実践している動画や映像などを多く用いて、興味・関心を持たせる授業づくりを行う。

今後の取り組み方針

- 電子黒板にて、図形、写真、動画等を掲示し、児童生徒にわかりやすく説明するための道具として活用できるよう実践型の研修会等を開催する。
- 電子黒板を使う必然性や利点を明確にし、運用面での工夫等の視点から学力向上に繋げるため、ICT支援員も活用しながら教材作成等の支援を行う。
- 特別教室での電子黒板の活用について、小中学校教諭及び児童生徒にアンケート調査等を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
28,521	28,521	22,817	5,704	0



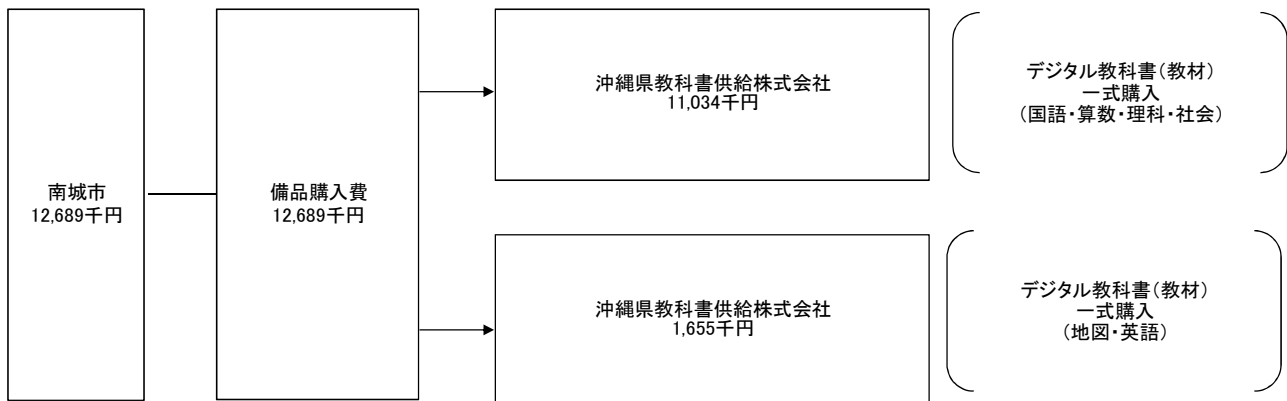
資金用途の流れ、点検、評価目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○入札残により不用額が発生しているが、当初予定していた事業内容を全て実施しており、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、完了後に検査を実施しており事業目的達成のため、必要であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-④	学習支援教材ソフト整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	令和2~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	教育環境の充実を図り、将来の沖縄振興に資する人材を育成するため、令和2年度は、市内小学校9校(久高小含む)に主要教科のデジタル教科書を整備する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
						13,358	
						12,690	
		0	0	0	0	▲ 668	
		-	-	-	-	-	
	B. 執行済額						12,689
	うち交付金充当額						10,151
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%
	予算の状況の説明		当初計画どおり予定していたデジタル教科書の整備を実施できた。補正減となった668千円は入札残である。				
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	市内小学校9校(久高小含む)に、主要教科のデジタル教科書を整備する		目標 ()	()	()	(整備)	
			実績			整備	
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明		当初計画どおり市内小学校9校にデジタル教科書を整備した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かり易かったと答えた割合が85%以上		目標 ()	()	()	(85%以上)	()
			実績			92.9%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明		児童生徒にアンケートを実施し、電子黒板を使用した授業は分かりやすかったとの回答が9割を超えており、成果目標を達成することができた。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・教科ごとにデジタル教科書の操作方法が異なるため、扱う教員の知識や技能の差が生じており、授業の質を確保する必要がある。</p>	<p>・授業の質を確保するためICT支援員の派遣を行い、教員の知識や技能に合わせた支援体制を強化する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・教員のみでもデジタル教科書を活用した分かりやすい授業づくりができるようにするため、ICT支援員による助言や活用事例の紹介、研修会の開催などを行う。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,689	12,689	10,151	2,538	0

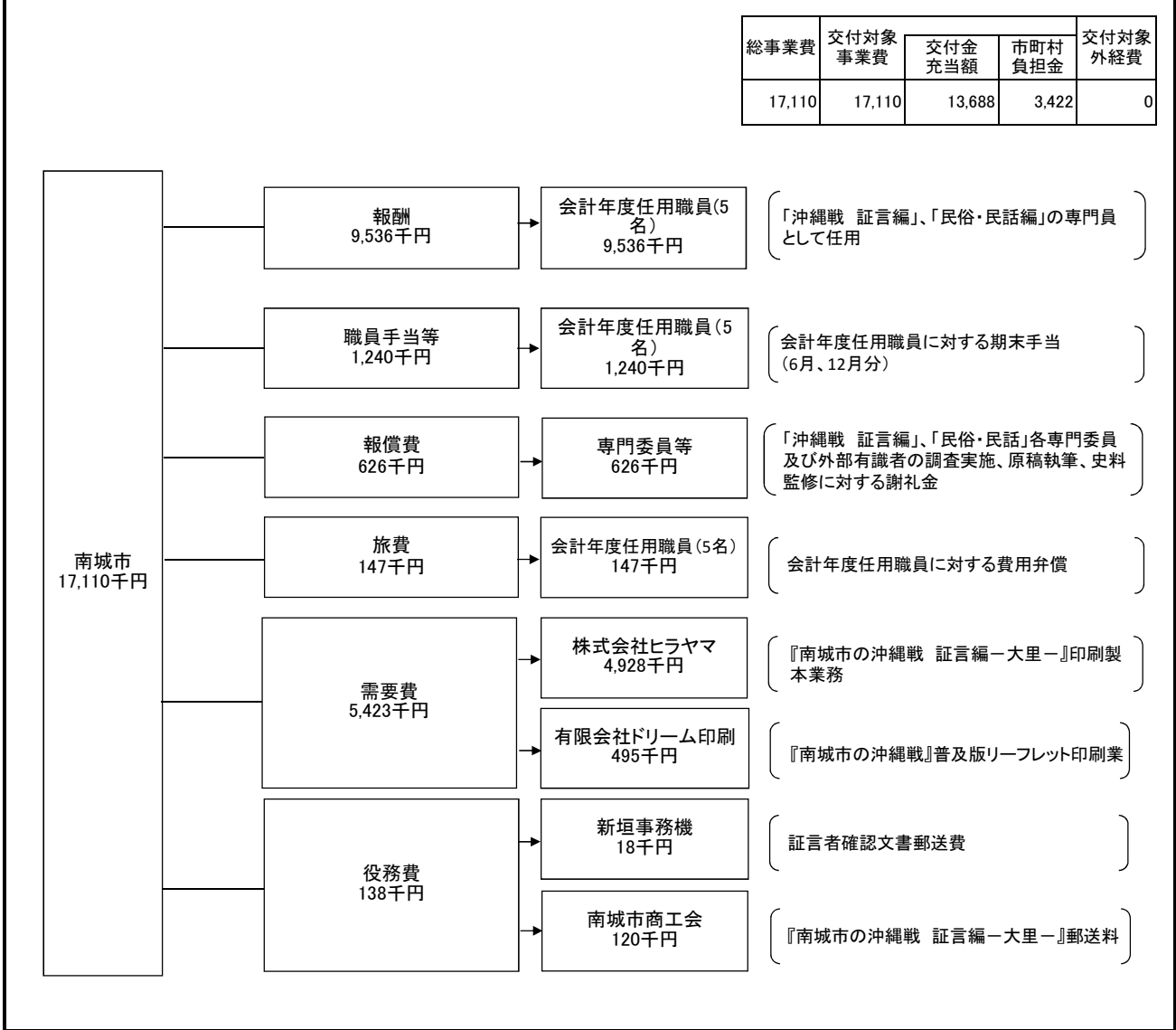


資金の流 点 検 査 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約での執行となっているが、教科書供給業者は専売代理店となっており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率は99.9%以上であり、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、完了後に検査を実施しており事業目的達成のため、必要であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	なんじょう歴史文化保存継承事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
事業内容	地域の文化財や伝統行事、沖縄戦に関することなど、本市の歴史・文化について調査研究・整理した図書を作成し、活用することで、歴史・文化の継承を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	28,679	29,553	15,627	25,315	17,679
	(b) 予算現額	28,679	29,553	15,627	25,315	17,679	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	28,679	29,553	15,627	25,315	17,679	
	B. 執行済額	25,513	27,245	13,354	21,860	17,110	
	うち交付金充当額	20,410	21,795	10,683	17,488	13,688	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	89.0%	92.2%	85.5%	86.4%	96.8%	
予算の状況の説明	概ね事業計画どおりに執行できた。不用額569千円は、印刷製本の入札残や調査、原稿謝礼の残などによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	「南城市の沖縄戦 証言編」刊行(400部)	目標	(「資料集 戦争」5回)	(『戦争』会議4回、原稿執筆)	(『資料集 戦争』: 会議(4回)、刊行(400部))	(「沖縄戦 証言編」刊行(400部))	
		実績	「資料集 戦争」6回	『戦争』会議3回、調査12回、原稿執筆	『戦争』会議(3回)、刊行(400部)	「沖縄戦 証言編」刊行(500部)	
「民俗編」会議(2回)、調査、原稿執筆	目標	「民俗」検討会議2回、会議・調査・情報収集5回)	(『民俗』会議2回、検討会議3回、調査・資料収集100回)	(『民俗』: 会議(2回)、原稿執筆)	(「民俗編」会議(2回)、調査、原稿執筆)		
	実績	「民俗」検討会議2回、会議・調査・情報収集7回)	『民俗』会議2回、検討会議0回、調査・資料収集27回、原稿執筆	『民俗』: 会議(1回)、原稿執筆	「民俗編」会議(なし)、調査、原稿執筆		
学習会の開催(2回)	目標	()	()	(学習会:(1回))	(学習会(2回))		
	実績			中止	中止		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・旧大里村地域の戦争体験の証言をとりまとめ、『南城市の沖縄戦 証言編一大里』として刊行(500部)した。証言者や協力者関係機関などへの配布先が予定より増加したことにより、刊行部数を100部増やした。 ・「民俗編」は、委員との個別調整により当年度の目標である原稿完成を達成することができたため、会議は実施しなかった。 ・学習会は、前年度刊行した『南城市の沖縄戦 資料編』および『南城市の沖縄戦 証言編一大里』について実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面での開催は中止となった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	学習会の参加人数: 30人以上×2回	目標	()	(30人以上)	(30人以上/回)	()	()
		実績			中止	中止	
進捗状況説明	学習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面での開催は中止となり、目標を達成することはできなかった。事業における調査成果を市内外へ可能な限り普及啓発するため、ことを目的に、ウェブ配信による調査成果の報告会を4回実施(延べ40人参加)し、また、『証言編』の朗読映像を制作しウェブ配信を行ったほか、リーフレットを制作し市民へ配布した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・学習会は、調査成果を可能な限り普及啓発するため、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、対面による実施だけでなく、状況に合わせた手法を取り入れる必要がある。</p>	<p>・刊行物や調査成果を活用した学習会等は、対面による実施のほか、ウェブ配信等での実施を検討する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・ウェブ配信による映像等は、動画共有サイトにアーカイブ化することでいつでも利用可能な状態にし、地域住民や児童生徒への普及啓発に取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



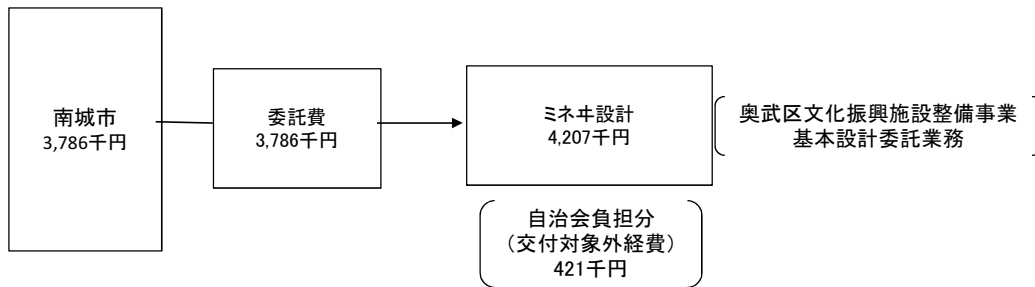
資金の流 れ 点 検 評 価 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○事業者は指名競争入札および随意契約(金額が少額である)で選定しており、妥当であったと考える。 ○執行残は3.2%であり適正な予算規模であった。 ○費目、用途は精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	奥武区文化振興施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア		
担当部課名	企画部 まちづくり推進課	事業実施(予定)年度	令和2~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり		
事業内容	地域文化の活動拠点として、災害時に一時避難所として活用できる奥武区文化振興施設を整備し、地域コミュニティの強化を図り、伝統行事・芸能等の文化の保存継承を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R4年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額					7,556
		(b)予算現額					4,544
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	▲3,012
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	0	0	0	0	4,544
	B.執行済額						3,786
	うち交付金充当額						3,029
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	83.3%
予算の状況の説明		入札前に基本計画委託料の積算見直しを行い、3,012千円を減額した。軽微な変更もなく事業執行できたため、758千円の不用が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	基本設計の作成	目標	()	()	()	(作成)	
		実績				作成	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	文化振興施設として地域資源を効果的に保存継承・展示するためのホール、ステージ、資料保存室の配置等について地元自治会と調整を図り、基本設計を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R4年度)
	基本設計の作成完了	目標	()	()	()	(完了)	()
		実績				完了	
	【R4成果目標】 ①地域の文化関連イベント等の開催 15回以上 ②施設利用者 800人以上 ③(施設利用者アンケートによる)奥武区の伝統文化等に対する認識の向上が図られた割合 80%以上	目標	()	()	()	()	①.15回以上 ②.800人以上 ③.80%以上
		実績					
進捗状況説明	予定どおり基本設計を作成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和3年度は、実施設計と並行して現地測量、土質調査等も行われるため、関係者との調整で不測の日数を要さないように留意する必要がある。	今後の事業実施に際しては、事業関係者とこれまで以上に緊密に意思疎通を図るとともに、事業期間の延長がないよう進めていく。
今後の取り組み方針		
<p>・令和3年度は、実施設計及び建築工事に着手する。</p> <p>・令和4年度の供用開始後は、地域文化の活動拠点機能を活かした資料展示および伝統行事・芸能等の保存継承するため、サバニ製作技術の講演会、観音堂由来伝説アニメ、ウシデーク、エイサー等の実演及び映像・写真の公開イベントを展開する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,207	3,786	3,029	757	421



資金の流 点 検 査 ・ 評 価 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は、入札残及び軽微な変更対応するためであり、適切な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担は1割負担を課しており妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。